

中越大震災ネットワークおぢや(仮称)設立準備会・パネルディスカッション

日時 平成17年10月25日(火) 13:30~16:30

場所 小千谷市総合福祉センターサンラックおぢや大ホール



(吉沢) ただいまから、「(仮称)中越大震災ネットワークおぢや」の設立準備会を開催いたします。私は本日の進行を担当いたします小千谷市企画財政課長の吉沢と申します。

最初に、地元小千谷市の関市長があいさつを申し上げます。



開会あいさつ

関 広一 氏(小千谷市市長)

(関) ただいまご紹介いただきました地元小千谷市長の関でございます。会場市の市長といたしまして、一言皆様に歓迎のごあいさつをさせていただきます。

本日は、県内はじめ遠く県外からの多くのかたがたから、この中越大震災ネットワークおぢや設立準備会にご参加賜り、さらに内閣府参事官・西川様、富士常葉大学学長・水野様はじめ、ご来賓の皆様におかれましても、ご多用の中ご臨席いただきましたことを心からお礼を申し上げます。

さて、中越大震災では言葉に尽くせない大変多くのご支援を県内外の皆様から頂きました。ここに改めて深く感謝を申し上げる次第でございます。中越大震災から早いもので1年がたちました。1年前の今日、10月25日を思い起こしますと、震災発生から3日めで被災者の食料や飲料水、避難所の確保等で手いっぱいということでありまして、相当混乱を来している時期でもありましたが、全国から多くの支援物資が届き、また全国の自治体から応援職員に駆けつけていただいた時期でもありました。本当に心強く勇気づけられ、またありがたかったことを昨日のように思い返しております。おかげさまをもちまして、小千谷市民も復旧から復興へと大きく一歩を踏み出すことができました。これもひとえに本日も列席の各位のご支援のたまものであると改めてお礼を申し上げます。

さて、このたび新潟県内の市町村と、本市に職員を派遣していただいたり視察においでいただきました区と市町村を対象に、発起人の一人として、このネットワーク設立準備会のご案内をさせていただきました。中越大震災では必要な情報がつかめない中、人命の救助や被災者の救援と安全の確

保、全国から駆けつけていただきましたボランティア、救援物資の対応、被災家屋の調査など、待ったなしにまさに不眠不休、緊張の連続でありました。

加えて、震災対応は防災訓練の域をはるかに超えて、これまで経験・体験したことのない未知の対応が求められるという大変過酷な環境に置かれることを身をもって体験する機会ともなりました。その中で、10年前の阪神・淡路大震災の経験を基に今回の中越大震災では多くの教訓が生かされました。それによって私どもも随分助かった面もございます。そして、今度は私どもが経験し体験した多くの教訓を今後のために役立てることが我々に与えられた責務だと常々考えておりました。

軌を同じくして、震災直後から本市に入っていたいただきました震災対応の総合的なアドバイスをはじめ本市の復興計画策定委員会の副委員長としてご指導いただきました富士常葉大学の重川教授からこのネットワーク設立の提案を受け、同じく復興計画策定委員長としてご難儀いただいた本市出身の丸山・長岡技術科学大学副学長にその趣旨を説明いたしましたところ、快く賛同いただきましたので、発起人代表に就いていただいたものであります。

このネットワークが確立いたしますと、地震のみならず各種の災害の際には被災自治体にとって大変大きな支援体制ができることになると思います。



これが実現できますように、ご列席各位からこのネットワークにご参加いただきましたことを、本日ご臨席賜りました内閣府、消防庁ならびに新潟県からこの輪が全国に展開いたしますように、ご指導、ご助言を頂きたいことをお願いし、今日ご参会の皆様重ねてお礼を申し上げまして、あいさつに代えさせていただきます。

(吉沢) 次に、ご来賓ならびにパネラーの皆様をご紹介いたします。

内閣府参事官、西川様でございます。

消防長防災課長、金谷様でございます。

内閣府参事官補佐、麻生様でございます。

富士常葉大学学長、水野様でございます。

新潟県県民生活・環境部防災局危機管理防災課長、飯沼様でございます。

杉並区危機管理室長、村上様でございます。

神戸市理事・危機管理監、長手様でございます。

日立市総務部生活安全課副参事、和田様でございます。

北塩原村産業政策課技査、渡部様でございます。

新潟市市民局危機管理防災課長補佐、木村様でございます。

ご来賓を代表して、小千谷市と防災協定を締結しております東京都杉並区危機管理室長の村上様よりごあいさつをお願いいたします。



あいさつ

村上 茂 氏 (杉並区危機管理室長)

(村上) ただいまご紹介いただきました東京杉並区の危機管理室長の村上でございます。改めて、昨年の中越大地震でお亡くなりになったかたのご冥福をお祈りするとともに、被害に遭われたかたにお見舞いを申し上げたいと思います。

さて、杉並区と小千谷市は、小千谷市の学生寮が杉並区にあるという縁から、それ以前から民間の物産展等の交流を通じていろいろなさまざまな交流を積み重ねてまいりました。それを踏み台といたしまして、平成16年5月に災害時の相互援助協定を結びました。その時点で私どもは、まさかその年の10月に小千谷市の支援に伺うことになるとは全く夢にも思っておりませんでした。

10月23日の夕方、地震の発生を知りまして、直ちに翌日の24日10時にはトラック10台に飲料水、毛布等の救援物資を積み込み、第1次救援隊として小千谷市に出発いたしました。その後、救援物資、それからボランティア・コーディネーター、清掃作業員、住宅再建相談要員、保健師等、物資・人的にわたりまして小千谷市を支援させていただいたところでございます。また多くの杉並区民のかた、小学校等々、各団体から寄せられました義援金も小千谷市にお届けすることができました。私どもといたしましては、それらのご支援が小千谷市の復興の一助になったと考えれば大変うれしい次第でございます。

さて、このたび自治体の災害時の教訓を共有するという目的でこのネットワークの設立の試みがなされております。現在、災害が多発する時点におきまして、時宜を得た試みであると考えております。いざ災害が発生したとき、このネットワークが力を発揮することを願うものであります。マスコミ、新聞やテレビの報道によりますと、小千

谷市の完全な復興にはまだまだ時間が必要であると、わたしどもも考えております。杉並区としては、小千谷市の完全な復興が一日も早く成し遂げられることを心から祈っておるところでございます。

(吉沢) ありがとうございます。次に、激励のメッセージが届いておりますのでご披露させていただきます。

「本日の中越大地震ネットワークおぢや設立準備会、ならびにパネルディスカッションが盛大に開催されますことを、心よりお喜び申し上げます。本日は公務のため出席できず、まことに申し訳なく大変残念です。今後も一日も早く復興し、貴市がますますご発展されますことを祈念いたします。川口市長 岡村幸四郎」。

以下、同様の内容で三郷市長・美田長彦様、小田原市長・小澤良明様から激励のメッセージを頂いておりますのでご披露いたします。

次に、(仮称)中越大地震ネットワークおぢやの設立につきまして、発起人代表であります長岡技術科学大学の丸山副学長がごあいさつ申し上げます。



発起人代表あいさつ

丸山 久一 氏 (長岡技術科学大学理事・副学長)

(丸山) 長岡技術科学大学の丸山と申します。本日は、この(仮称)中越大地震ネットワークおぢやの準備会、およびパネルディスカッションに多数ご参集いただきまして、本当にありがとうございました。地震の際には大変お世話になりました。

わたしの生まれは小千谷市です。小千谷市で18歳まで過ごしまして、その後、東京のほうに行きましたけれども、また今から26年前に縁あって隣の長岡技術科学大学に奉職することになりまして、今日まで至っております。今、住まいは長岡ですが、両親、弟はこの小千谷市に住んでおられて、その際、被災いたしました。わたしのいる長岡も被災しました。

23日前後1週間はこの地域は1年たつて次に何をするかという、いろいろなイベントが連日のように開催されております。わたしは長岡のほうでも大学関係でいろいろのことを、先にどうやってつなぐか、つなぐ方法を考えておりますが、地元小千谷に関しても、いろいろなかたからご援助いただいておりますし、さらにこれからどうするかというのは本当に大事な話で、このネットワークというお話を伺って、すごくうれしく思いました。

常々わたしも、どうやってこれからやっていくかということを考えておりましたので、そのいい機会になると思います。特にこういう地震を受けたときというのは平時ではありませんので、いろいろなことが分からない。そのようななか、小千谷市の復興に関しては京都大学防災研究所、それから富士常葉大学の重川先生はじめ多くの先生がたからご援助いただきました。

被災をしたときは、被災地の人たちはわたしも含めて当初ぼう然自失です。そのときに周りのほ

うがよく見えていることがけっこうあります。しばらくして復旧に向かう動きが出始めたときに、今度は地元でないと分からないこともけっこうあります。そういう意味では、両者のコミュニケーションをうまく取りながらやっていくということがすごく大事ななと思いました。

そういう意味では、復興計画も林先生、重川先生のおかげで、復興計画書としては今までにない地元の意見、本当に被災をした人たちの意見を十分取り入れて、すごくいいものができたと思います。わたしはたまたま出身者であるということもありまして、委員長という役目を仰せつかりましたが、結果としてすごくいいものを作っていました。そういう意味では、外部のプロのかたがたにすごく協力していただいて、今ここまで来ている。これからさらに実際にやっていくことがすごく大事ですが、こういう経験を、できましたらいろいろなかたに伝えたいと思います。

災害は忘れたころにやってくる。地震災害は地球の構成上、定期的にやってきます。100年に1回あるいは規模によって200年に1回、いろいろなことが必ずありますが、受け継ぐのはすごく難しい。混乱のときにいちばん何が役に立つかというと、ふだん顔見知りの人たちが来てやってくれるというのがいちばん安心してできます。そういう意味では、ふだんからいろいろなことでおつきあいしていただいて、そういうかたが駆けつけてくれると、精神的にはすごく助かります。

いろいろ活動するときには適宜、指示がなくても動いていただかないといけないことがけっこうあります。ですから、そういうときにこういう経験を伝えて、あるいは、そういう経験を持ったかたが来ていただけると、すごくいろいろなものが短時間で処理ができる。そういう意味では、我々の経験をどうやっていろいろなかたに伝えていけるか。そういうことでは、このネットワークで

これから活動を続けていけるというのは、すごくわたしとしてはありがたいというか、これでいろいろ恩返しもできるかなと強く思っておりますので、これをぜひ続けていきたいと思っております。

今日は、我々小千谷市の人々、長岡、川口も含めて、中越地区全体で多くのかたが助けていただきました。この式にさらにまた駆けつけていただいたということで、大変ありがたく思っておりますが、また別の面では心強く思っています。小千谷市は130年ぐらい地震が来ないだろうと思っておりますので、その経験を生かしながら、今度我々が助けに行く番だと、助けてもらったかたにはいろいろそういうことで伝えております。また普段からコミュニケーションを取りながら、日本全体という意味でできるだけ安心の度合いが増すようなシステム、ネットワークにしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。



(吉沢) 続きまして、ネットワーク設立趣旨、規約等につきまして、富士常葉大学の田中助教授が説明をいたします。

中越大震災ネットワークおぢや設立について 田中 聡 氏（富士常葉大学助教授）

(田中) それでは、わたしのほうから、(仮称)中越大震災ネットワークおぢやの設立趣旨、および規約等につきましてご説明させていただきます。まず、設立趣旨でございますが、皆様ご承知のとおり災害対応といえますのは非常に短期間に膨大な量の業務が発生してまいります。さらに、その発生した業務が通常の業務と同じようなものであればいいのですが、それが全く質の異なる新しいタイプの業務であるということもご案内のとおりだと思います。

そういう業務を短期間のうちに迅速かつ公正に処理するためには、やはりどうしても職員のかたがたの応援というのが必要になります。わたしども防災研究者はこういうものに対して、もっと迅速にかつ公平にできるという仕組みを日夜研究いたしておりますが、まだ特効薬はございません。非常にローテクながら皆様の知恵と経験を使って、これを処理していくしかまだないのが現状であります。

そういう中で、今回、新潟県中越地震が発生いたしまして、さまざまなかたのご協力を頂きました。それから、今回初めて応援に携わられたかたも多くいらっしゃると思います。そういうかたがたの経験あるいは教訓というものを蓄積して次に伝えていかなければいけない、あるいは伝えていくということが、この震災にかかわりを持ちました者としての責務であると考えております。この教訓を今蓄積し共有化しないと、また次にどこかで災害が起こったときに一から同じような悲劇を繰り返さなければいけないということも事実であります。

そこで、これら経験を共有化して経験者をネットワークするという趣旨のもとに、この中越大震

災ネットワークおぢやの設立を考えております。ここでは、今回の対応で蓄積された経験と教訓を関係者の間で共有化するとともに、次にどこかで災害が起きた場合、今回よりも少しでもよりよい対応ができるように情報あるいは人的な支援をさせていただきたい、そういう趣旨でこのネットワークの設立を考えております。

規約のほうについてご紹介をいたします。まず、趣旨、目的および設置でございます。1条で、新潟県中越地震における災害対応を契機として、災害時における自治体等の災害対応の教訓の共有化を図るとともに、災害発生時における被災市町村の災害対応支援のための情報の提供と、経験職員等の派遣の調整を行うことを目的とするとさせていただきます。

さらに第2条、何をやるか、事業のご説明であります。平常時におきましては情報の共有化、それから災害対応能力を高めるための教育および啓発活動、災害時における広域支援活動に関するさまざまな制度改正に対する提案もしていきたいと考えております。それから、年1回は総会およびシンポジウムを開催させていただきたく思います。災害発生時におきましては、発災時の災害情報の発信、それから支援情報の発信ならびに被災地へ災害対応経験者を派遣するための情報管理およびその調整ということを、このネットワークの事業の一つに挙げさせていただいております。

第3条は組織について、第4条は会費、第5条で役員のことについて定められております。第6条では顧問、第7条で専門部会、第8条で役員の職務、第9条で事務局、その他委任事項につきまして第10条で定められております。

このような規約案でございますが、これをもとに、ネットワークおぢやを設立していきたいと考えております。

特にご意見がないようございましたら、この

中越大震災ネットワークおぢやの設立につきまして、拍手でご賛同いただければと思いますが、いかがでしょうか。

(拍手)

どうもありがとうございました。



(吉沢) ありがとうございました。ただいま、中越大震災ネットワークおぢや規約が決定いたしました、会が設立いたしました。

それでは、設立の了解を頂きましたので、今後、会を運営していくためには会長、副会長の選任等が必要となりますので、地元の小千谷市長が座長になりましてお諮りをしたいと存じますが、いかがでしょうか。

それでは、関市長が座長になりまして、会長、副会長の選任等をお諮りしたいと思います。よろしく願ひいたします。

(関) 先ほど承認いただきました規約第5条に基づきまして、今後この会を運営していくために役員を選出をしたいと思っております。

それではわたしのほうからお名前を申し上げまして、皆さんからご賛同いただきたいと思いますと思うわけですが、会長には、発起人代表の長岡技術科学大学の丸山副学長さんから、そのまま会長とし

てご難儀いただきたいと考えております。

また副会長は、軌道に乗るまでは事務局を担当する団体からという考えで、富士常葉大学の重川教授と、私、小千谷市の市長、関が担当したいと考えておりますが、よろしゅうございましょうか。

(拍手)

ありがとうございました。

なお、幹事その他につきましては、会長、副会長にご一任いただき、後ほど、それぞれのかたのご意向を聞きながら就任をさせていただきたいと思いますが、この点についてもよろしゅうございましょうか。

(拍手)

ありがとうございます。それでは、ただいまご承認いただきました会長さんと副会長で、これからの会の基本的なものについてお諮りしながら、また皆さんのところで随時ご連絡申し上げたいと思いますので、よろしく願ひしたいと思います。ご協力ありがとうございました。

